

東由利村報

No. 154

1970・6・1

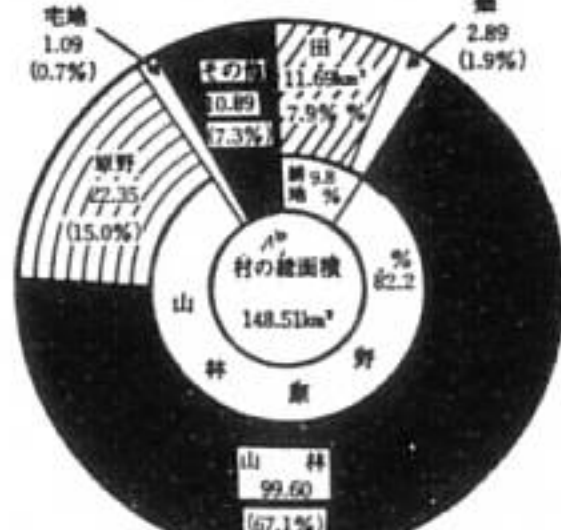
発行 秋田県東由利村役場 印刷 K K 本間印刷所
毎月1日発行(1部8円) 昭和42年7月21日第三種郵便物認可

世帯と人口

世帯数 1,584世帯
人口 7,326人
男 3,621人
女 3,705人
前月に比し世帯は2の増
人口は32の減

財政

一般会計 308,357千円
特別会計 85,738千円
国保 83,600千円
内訳 黒診 792千円
簡水 980千円
玉財 366千円



子どものこと、家族のこととはもちろんだが、留守中に火災でも起ったら、焼死するものが必ず出るに違いない。出かせぎ中の一番の心配ごととして、黒淵の佐藤さんは語ってくれた。ことし新年早々に、例の米減産、減反政策が行なわれることになったとき、留守家族では問題が大きすぎるため解決がむずかしかった。他町村ではマチの主脳部が出かせぎ先を訪問して説明会を開いたというところもあるという。本村でも訪問して説明せよ、という意見もあった。しかし全住民の約二割にあたる八七八人の方々が一八都府県二四事業所に分散しており、手紙を出しても八〇〇一〇〇通は「受取人不在」で返される、連絡先さえもつかみ得ない人々もあった。そこで新しい出発点に立つ出かせぎ対策のために、五月四日の出かせぎ反省会となったわけである。

反省会で語る

気がかりは留守の火災 解消したい連絡先不明

〇人に対し二〇〇人いて、どしか職安を経していないが。
A 万博見学がてらであり職安は通さなかった。残念とは思われない。
E 出かせぎを二年、三年と経験するにつれ、同一事業所との直接取引になってくる。また、横手、大曲の職安の紹介を受けていることもある。本村職安にのみこだわらなくてもよいと思う。
C 経験的に職安を通した方が安全であり、三年來東由利村季節労働協議会をつくらせて輪を広げようとしているが会員は増えていない。
県対策室 職安を通せば役場に知れ、課税対象になるのではと考えている方がいるだろうか。また順調なときには職安など問題はないが、賃金不払いや事故が起つたら誰が解決してくれるのかを考えてほしい。青森県では今シーズン五四人が事故死、一人が脳卒中で就労中に死亡している。
税務課 出かせぎ収入からの税金は六十三万四千円である。一人あたりでは平均九一四円となる。②出かせぎ先で源泉所得税を納めたくない場合は、就労と同時に「給与所得者扶養親族の申告書」を提出するよう。徴収された場合は、就労先から源泉徴収票をもらって来、三月十五日までに「所得税の確定申告書」を出せば過納分が返還される。なおこのことは毎年二月三月にかけて行なっている住民税の申告指導と併せて説明している。

しやっぱり子や妻の近くで暮したい。六、七〇歳まで出かせぎはしたくないので、そこで得た技術を生かし、地域で働きたいと思っている。
E 日産の厚木工場で働いてきたが、他町村からは集団で就労していた。集団の方たちは残業も優先的にもらっていたし、知った者同志の気安さで愉快そうであったが、心細いのは単身就労のこちらであった。
F 会社への不満解決には集団就労に越したことはない。会社では、われわれ秋田県人を根気よく働かし、酒ツコ飲ませれば歌もうまいと好評であった。
G 留守家族座談会などでは、出かせぎが好奇の目で捉えられがちだ。私の地域では一三〇戸中一〇〇人の出かせぎがあり、冬の火災・焼死者が必ず出るという不安。職場慰問・訪問という言葉にねりかえて専門職員を派遣してもらいたい。

しかし郡内では第一に労働時間が長いし、賃金が安いので、正直言って馬鹿らしい気がする。これらの指導をもうわせた、片手落ちにならない指導を切にお願いしたい。(会場からは失業保険に対する不満が圧倒的に多くあがり他管内の実例に比べて厳し過ぎる印象であり、再検討を本庄職安に望んでいた。)

写真の出発点に立つ出かせぎ対策のために語り合う会場

新しい視点で対策が

五月四日午後から開かれた出かせぎ反省会には、帰村された出かせぎの方四四人と、県庁の出かせぎ対策室長、本庄公共職業安定所長、村議会議員全員、村長ら役場関係者が参加した。

まず小松村長は、所得減をカバーする手近かな方法としての出かせぎを、村の大きな問題として取上げ、出かせぎ対策の骨子をつくりたいのでナマの声を聞かせてほしいとあいさつを述べた。

また県の出かせぎ対策室長は、米をめぐる諸情勢を背景に、対策室を県庁の産業労働部に設置して、本腰をいれる



織をつくりたい。②職安を通した就労をして賃金不払いや事故が起きた場合の解決を容易にしたいと語った。

このほか本庄職安所長は、企業が計画雇用を打出しておる来年の求人は減少傾向にある。②グループ就労と、企業内での技術が年々評価され賃金アップになるよう定着性を身につけたほうが有利と説き

長沢議長は他町村に比べて集団就労が少ないので一考を要すること。②職安を経なくとも賃金が高ければ、という目先のみに捉われない、堅実安全な場所を選ぶことが今後の課題と述べた。

東由利農協では農協が果す役割を勉強したいと述べ、玉米農協は、十年後には一人五十万円の所得が必要と言われているが、管内組合員につき試算したら四十万円としても半数の組合員しか達しなかつたと分析、これまではふれなかつた有利な農外収入対策をかけることとしたと話された。

何をクヨクヨ九百円

このあと小松村長が司会して、出かせぎにからむいろいろな問題を拾いあげて話し合いをした。

就労先に対する不満、留守中の不安は何か。
D 職場には不満はなかった。四年ほど同一職場に行っているが、会社の方とも顔みしりになったし、技術も身につく単年就労の人よりも高賃金で待遇されている。しかし

心細い単身就労

K 六〇歳を越えた出かせぎの方を見ていると、自分の行く末が心配になる。
L さいわい職安からも見えてくれているので。三〇人グループで、長い人は八か月間就労して来ている。しかし失業保険を受ける関門はなかなか厳しく、郡内の土建業にすぐ就労しなさいと言われる

鳥海国定公園車道愛称を募集

鳥海国定公園内の観光道路(吹浦、鉾立線、延長九・〇〇〇)が車道として完成し、七月十七日に開通する。そこで県では、多くの人々に親しまれるような愛称を募集している。

▽応募方法は官製はがき一枚に愛称一点と応募者の住所氏名、年齢、職業、性別を記入。応募枚数に制限はない▽締切り昭和四十五年六月二十日までに到着のこと▽宛先、秋田市山王四丁目一番一、県庁観光課内、鳥海観光道路愛称募集係▽入選発表七月下旬に新聞、テレビ、ラジオでするほか入選者に通知▽賞金入選一点三万円。残念賞二点各五千元。

米減産一〇セントに 確認時には動きも

確認時には動きも

長い稲作農業の歴史に一つの転換期を刻むこととなった米生産調整。これを村内各農家が、どのように消化するか、の具体的な計画が、五月十五日現在で集計された。

それによると、県からの割りあて数量四一三・四トに対して一〇割の四五五トに達し

ている。しかしこれは、あくまでも書類上での数字であって、耕地を実際に確認する段階では多少の動きはあるものと考えられる。

またこれを、どのような方法で捉えているかを見ると、六二割が休耕、転作は一五割

写真、穴ぼこ道追放をめざしてきようも活躍するダンブ力ー



村道補修のスピード化にダンブ購入

一六五キロメートル。これは本村村道の総延長であり、村を起点にして換算すると、ほぼ大館市にいたる距離に相当する。

さて、この村道補修であるが、従来から年間約五、〇〇〇立方メートル(昨年度八百六十万円)の砂利を投入していたが、その割には効果があがら

たし加入できる方は明治三十九年四月二日から明治四十四年四月一日までに生まれた方であり、かつて国民年金の被保険者にならなかった方です。くわしいことは国民年金係へどうぞ。



米生産調整の実行計画

	調 面	整 積	数量	内			
				転 作	通年施工	休 耕	転換
黒淵	1.077	76	45	239	76	834	4
田代	1.488	69	189	—	1.282	17	
館合	1.698	68	289	66	1.323	20	
老方	2.391	121	251	1.247	862	31	
蔵	752	37	59	556	123	13	
法内	876	36	100	42	731	2	
宿	1.791	79	377	271	1.129	14	
合計	10.073	455	1.504	2.182	6.284	101	

②大小豆③そ菜④デントコン⑤青刈麦⑥たばこ⑦養魚の順となつてゐる。また、つぎの米生産調整の実行計画表は端数処

自転車も
やつぱり一列
左がわ

青少年 総合推進地区に

実りの社会築くため



県がする、青少年育成総合推進地区に、本村が指定された。若い芽を健やかに育てることは可能性に富む。あしたをつくることであり、県としては四十二年から県内各福祉事務所単位に、二年がかり一町村を指定して青少年の健全育成に力を入れていく。すでに昨年度まで二〇市町村が終了、今年度は本村を含めて四箇所が指定、昭和五十年年度までには全県七二市町村に及ぼす計画だという。

五月十三日午後一時から役場で、県青少年交通対策室長が本村小松村長に対し、青少年健全育成総合推進地区に指定する、指定書の交付式が行われた。

これには県の室長、由利福祉事務所長、県教育庁由利出張所長ら県関係者と、村内からはPTA一八団体三二人が出席して、県側の説明を聞いた。

心が通う家庭を

県の青少年交通対策室長から指定書が手交される。



まず基本目標は、各地域の組織を強化する。そして心身健全な子どもに育て、親と子の心が通いあう明るい家庭をつくることである。そのためには、子どもの事故防止を第一に掲げたい。子どもに遊び場を設けてやり、間違っても交通事故にあわせはならない。また水死事故防止のために、水難救助法を身に付け、危険場所には表示と監視人を立てるくらいの熱意が必要である。

問題は子だけに

三つめには、声をかけ合う運動を盛りあげたい。とかく大人と青少年の間には断層を感じ、心が通いあわないうらみがある。たとえ他人の子でも、わが子に対すると同様の関心をもって、健やかに育ててほしい願望をもたねばならない。

企業界見

カラスの鳴かない日はあっても、議会が誘致工場を口にした日はなかった。と言われるほどの期待が実って、東京電化の専属工場として、共和電子工業株式会社が設立されたのは、一



年前の六月一日であった。▼一年の歩みを経て、どんなようなのか、ひとつ共和電子(旧下郷役場、定時制高校建物を利用)をのぞいてみよう。▼まず建物が以前のくすんだクレオソート色から、薄緑の明るい色に一変していたのを見れば、二階の事務室に歩を運ぶと、佐藤祐男社長が「この一年は、とんだ忙しさで、村との情報交換を怠たり、誤解されてしまつて」と、三月議会での一般質問

共和電子の巻

社員の腕にもみがき

たよった当時を回想する。▼会社には年二回の決算期があり、実績をはじき出しているが、創業時とかみ合った前半は需要に追いつかない好調な経過。しかし後半に入ると、アメリカ経済のスローダウンが響いて、



暗い材料ばかりではなく、かえって波を乗り越える貢献度の高い製品がデビューすることにもなり、それがいまヨーロッパで拡充傾向の超高压コンデンサーだといふのであった。▼この一年をふりかえると、生産に

つぐ生産で明け暮れたが、社員の技術にもみがきがかかってきたので、こしは精神面を豊かにするようなサークル活動として、民謡・生け花・読書・スポーツに力を注ぎたい。特にスポーツ広場に隣接地二〇坪

を貸する約束もできているという。コンデンサーにニス塗装を。なかなかの技術が要求される平均三六〇個ずつが一きよに仕あがる。

あなたには覚えが

スピード違反が一位

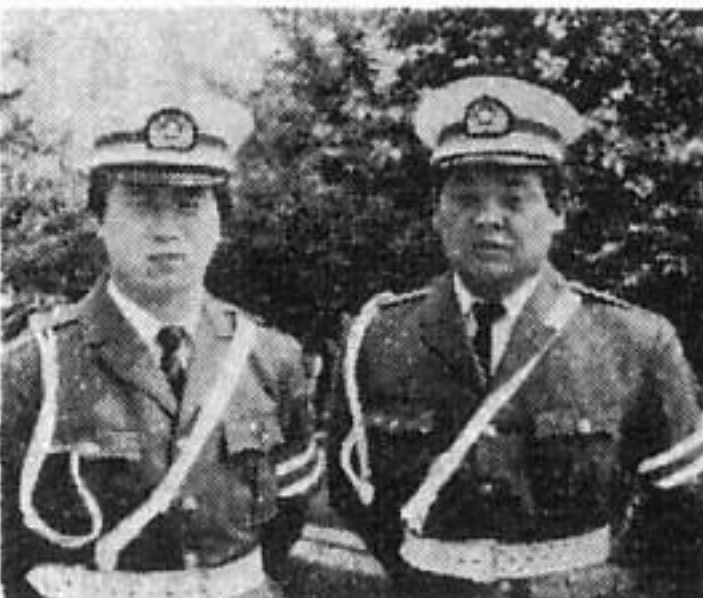
交通違反のなかで、危険性が低く程度が軽いものを「反則行為」とし、一定の反則金一億一千二百七十万円余といはしないという「交通反則金制度」が昨年七月から行なわれている。秋田県での昨年

道路標識もまばらであり、めったなことでは反則金を、というケースは少ないが反面ふだん道路標識に接する機会が少なく、たまに市街地へ出ると、何を示す標識なのか、さっぱりチンプンカンプンということが多い。事故の未然防止がねらいのこの制度も、一つまちがうと悲惨な事故につながるケースが多いだけに、ドライバーの

日ごろの心がけが大切である。なお、県内での反則金上位十項目は、①スピード超過②駐車違反③追越し違反④信号無視⑤免許証不携帯⑥指定場所一時不停止⑦整備不良⑧通行禁止制限違反⑨定員外乗車⑩無灯火である。

交通指導員が発足

村では道路交通の安全を確保する一助にと、このほど交



るが、警察官とまぎらわしい越権行為は禁止されている。

△今月の納税△ 村県民税第一期

交通反則と金額

(単位千円)

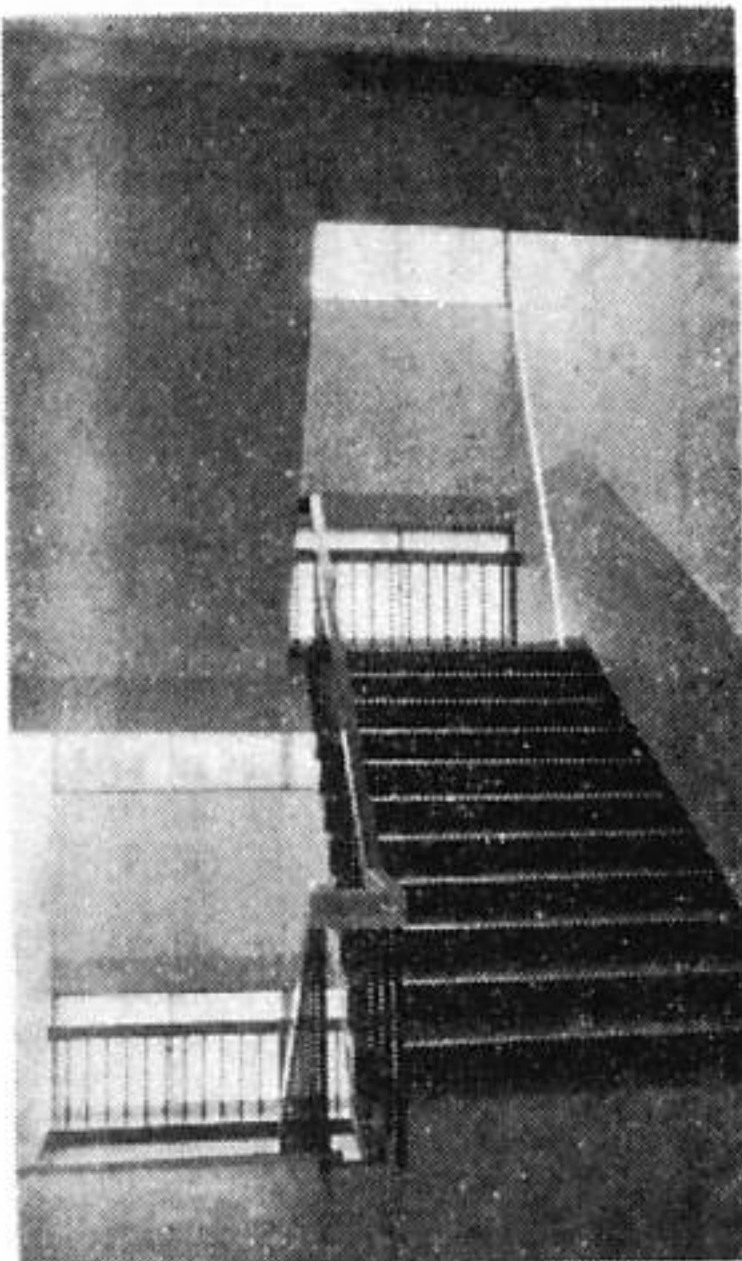
反則行為	車両の種類			
	大型車	普通車	二輪車	原付車
速度超過	20~25未満 15~20未満 15未満	10 8 6	8 6 5	6 5 4
信号無視	止まれ等 減点	6 5	5 4	4 3
通行禁止制限違反	5	4	3	2
通行区分違反	6	5	4	3
法定横断等禁止違反	5	4	3	2
追越し違反	6	5	4	3
踏切不停止等	6	5	4	3
しゃ断踏切立入り	8	6	5	4
優先道路通行車妨害等	5	4	3	2
徐行場所違反	5	4	3	2
指定場所一時不停止	5	4	3	2
積載重量超過	10割以上 5~10割未満 5割未満	8 6 5	6 5 4	5 4 3
積載容量超過	5	4	3	2
整備不良	制動装置等 尾灯等	6 5	5 4	4 3
安全運転義務違反	6	5	4	3
幼児等通行妨害	5	4	3	2
免許条件違反	5	4	3	2
通行帯違反	4	3	2	1
右横断合図車妨害	4	3	2	1
指定横断等禁止違反	4	3	2	1
車間距離不保持	4	3	2	1
追いつかれた車両の義務違反	4	3	2	1
割込み等	4	3	2	1
右左折合図車妨害	4	3	2	1
交差点優先車妨害	4	3	2	1
緊急車妨害等	4	3	2	1
駐停車違反	4	3	1	1
無灯火	前照灯 尾灯等	4 3	3 2	2 1
減光等義務違反	4	3	2	1
合図不履行	4	3	2	1
警音器吹鳴義務違反	3	2	1	1
乗車積載方法違反	4	3	2	1
定員外乗車	4	3	2	1
けん引違反	4	3	2	1
装置不良	4	3	2	1
泥はね運転	4	3	2	1
転落防止措置義務違反	4	3	2	1
停止措置義務違反	4	3	2	1
公安委遵守事項違反	4	3	2	1
右横断方法違反	3	2	1	1
右左折方法違反	3	2	1	1
警音器使用制限違反	1	1	1	1
制限外許可条件違反	3	2	1	1
原付けん引違反	—	—	—	1
免許証不携帯	1	1	1	1

中学一期工事が完成

実質統合は明年四月

右完成した東由利中学校一期工事の全景、南面から望む。左二階図書室前から見た階段部分。窓外には緑が広がる

東由利中学校の第一期工事が完成、台山原頭にて鉄筋コン



クリート構造三階建て、九七五平方メートル(五九七坪)の校舎が、晴れやかな姿を見せている。

第一期工事は昨年七月九日から七千二百五十万円の巨費を投じ(資金の一部は簡易保険の還元融資を受けて)浅沼組(本社大阪市)の手で進められていた。

校舎は外観をチョコレート色を主調にし気品にあふれており内部は生徒たちが思わず

小砂川・本荘駅伝で本村勢が優勝

第六回小砂川・本荘駅伝競走大会は、四月二十九日開催されたが、これに参加した本村陸上競技協会(長谷山二郎会長)所属の青年部チームは、健闘よく初優勝を飾った。本大会は本荘中央青年会から一〇チームが参加して、小砂川・本荘間三七・五キロで競われたが、一区九キロで早くも阿部英男君(杉森)がトップに立つなど、本村勢優位の競技展開となった。なお出場選手は阿部英男(杉森)、佐藤清一(新旭)、佐々木秀雄(大琴)、阿部吾郎(横渡)、石渡豊和(岩館)の五選手であった。

県大会に九人派遣

第二三回全県都市対抗陸上競技大会は、第二五回東北陸上予選を兼ねて、六月七日仙北郡六郷町の陸上競技場で開かれるが、本村からは陸協所属の九選手が推せんされ、郡市陸協から出場することになった。なお郡市代表は四四人

本村に陸協が発足

本村陸上競技協会が、同好四人で発足した。同会は四月二十七日役場で設立総会を開き年間事業計画、役員を決めた。それによると、四月二十九日小砂川・本荘駅伝に出場。六月七日全県都市対抗陸上に出場。八月、村民体育大会に協力。九月二十三日市町村対抗陸上に出場。十月奥羽横断駅伝に協力などである。

まずわが家庭が道徳的でないければならないし、社会の細胞である家庭の中に、断絶をつくらない努力があつて当然である。家庭の日をもつとともに、親の会、婦人学級、若妻会、家庭教育学級、PTAなどで意識を高める学習を

展開したい。四つめは、青少年団の育成強化である。地域子ども会、スポーツ少年団、青年団活動の活発化を促して、自主性と自己の役割を体得させる。これらを柱に、村内の各種団体や機関では、それぞれの

働きに応じた活動細目を設定して、実践にふみ出すことと

されたあと、この活動をさらに活発に進めるため、常任顧問として、元、宿小校長の木島正造氏(蔵新田六〇歳)また専任職員には本荘高校下郷分校講師の佐藤セイ子氏(八日町三九歳)をそれぞれ委嘱した。

